

幼児用トイレブースとは

日本パーティション工業会

幼児用トイレブースとは

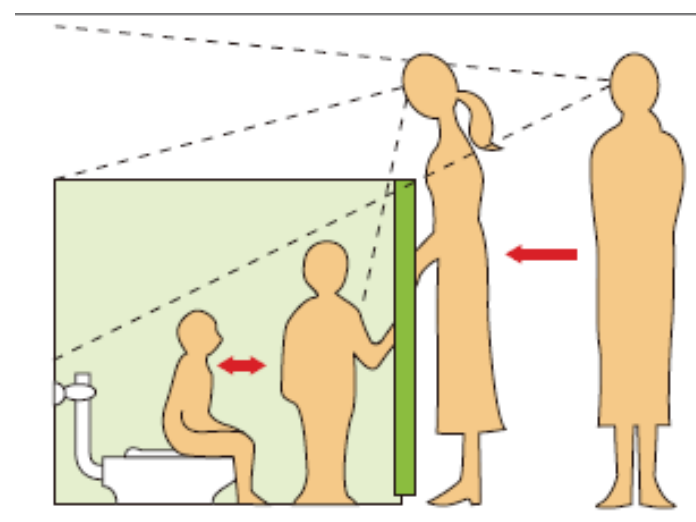
幼保施設やパブリック施設のトイレ個別空間を形成することに特化した間仕切壁です。ローパーティションタイプ、扉形状、外開き構造という特徴に加え、安全性、デザインを重視した構造としています。



1. ブース高さ(ローパーティションタイプ)

安全性を考慮した笠木レスのローパーティションタイプの納まりです。

子どもにとって圧迫感や恥ずかしさを感じさせず、大人が目も届きやすいパネル高さ設定としています。



子どもの安全とプライバシーに考慮しながら同時に大人が見守ることができる配慮をしています。(パネル高さは900~1300mmで高さ設定)

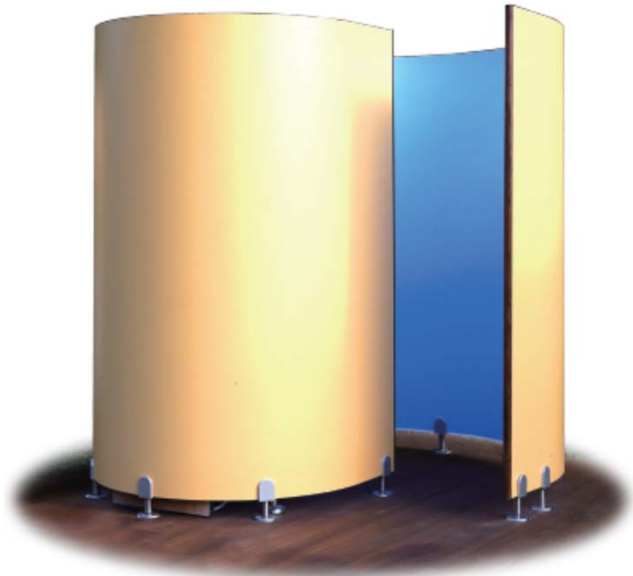
2-1. トイレブース開口（扉あり）

個室内の幼児を手助けする際に扉を開けやすい「外開き扉」を推奨しています。
（内開き扉の場合、扉を開けるとときに個室内の幼児にぶつかる可能性があります。）



2-2. トイレブース開口(扉なし)

未就学児童向けに視線だけを遮ることができる衝立のみのタイプ(扉無し)もございます。扉がないことにより閉塞感を緩和する効果もあります。



3. 材質

ドアパネルは衝撃やキズ、汚れに強いソリッド構造パネルやサンドイッチ構造を採用し、使用条件がきびしい保育所・幼稚園に最適な仕様としています。



サンドイッチ構造
・パネルが表面材と無垢芯材で構成された構造



ソリッド構造
・メラミン樹脂表面層とフェノール樹脂コア層を一体成形したパネル

4. 安全性(指はさみ対策)

扉の吊元は特に指を挟むケガの発生する事が多い場所です。あえて壁パネルと扉の隙間を広くすることで指が挟まれない構造としています。



5. 安全性(形状)

パネルの「角」を極力なくし、衝突時のケガを防止しています。
手を触れるパネルの木口部を樹脂製カバーで仕上げている商品もございます。



ドアパネル小口面はクッション性のある樹脂材を四周に配置。



コーナー部の納まり例。カド部はアルミ材を使用しエッジ上部は樹脂材を使用。

6-1. デザイン(グラフィック)

幼児が親しみやすいよう扉表面に「キャラクターデザイン」をあしらったり、遊具のような「カラーリング」に対応することもお勧めです。さまざまなデザインにより明るく楽しいトイレ空間を演出することができます。デザイン・カラーリングについては各社へ問い合わせください。



ビビットなカラーリング、扉表面への掘り込みデザイン



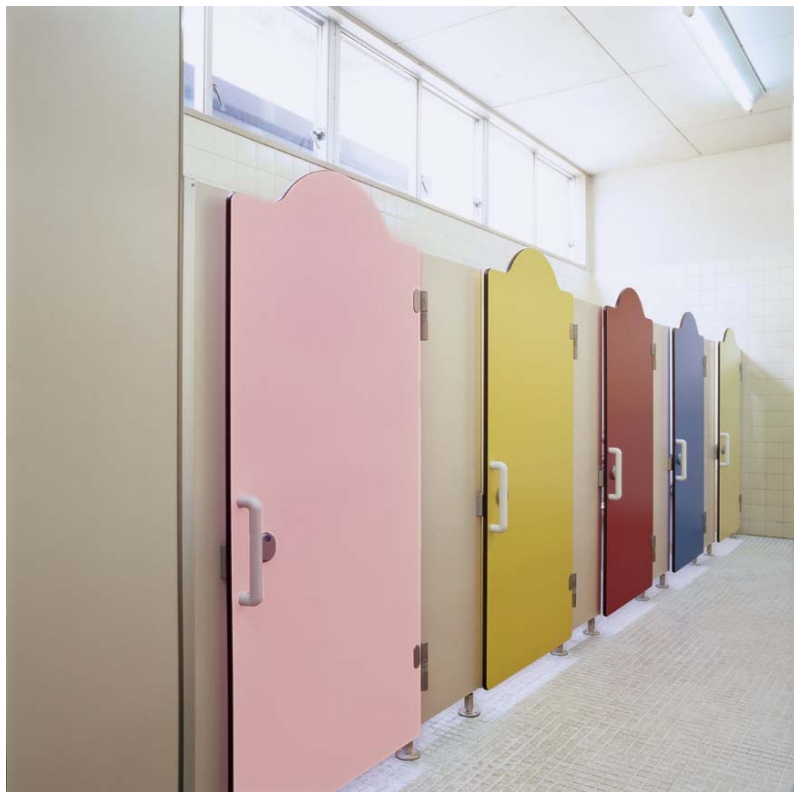
キャラクターシール



扉表面へのデザイン印刷

6-2. デザイン(扉形状)

扉形状はハット型、弓型など遊び心のある形状としている製品もございます。
デザイン(扉形状)については各社へ問い合わせください。



7. 金物

幼児が使用することを考慮し、丸みを帯びた金物設定により、ケガ防止に配慮しています。



引手ハンドル



連結金物



引手付錠



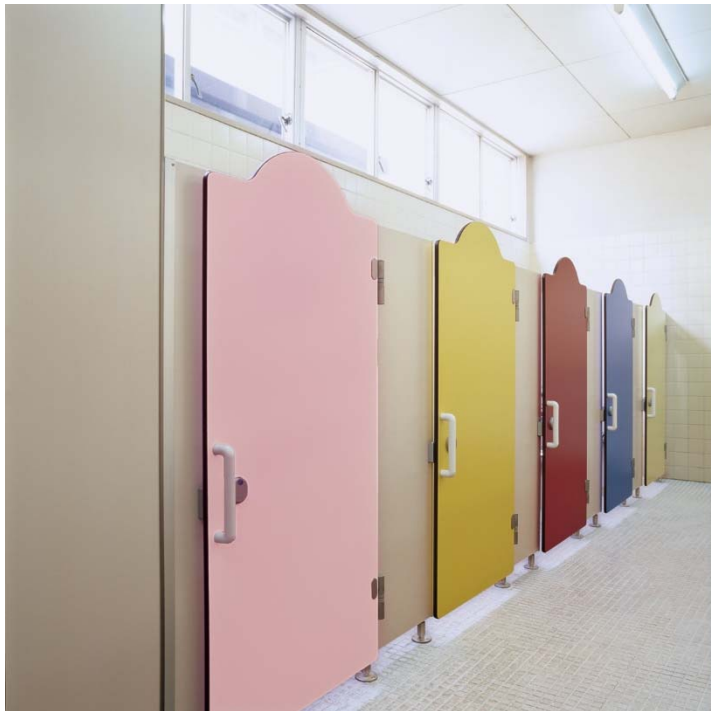
グレビティヒンジ



打掛錠



8. 施工事例



9. 参考文献

●学校施設整備指針

学校施設整備指針は、学校教育を進める上で必要な施設機能を確保するために、計画及び設計における留意事項を定めたものです。

幼稚園施設設備指針は幼児用トイレブースの設計にあたり、関係法令等の規定に基づくことはもとより、指針及び文部科学白書の内容に配慮しています。

文部科学省 学校施設整備指針(幼稚園施設設備指針(平成30年3月))

URL: https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/seibi/main7_a12.htm